

財団法人 日本少年野球連盟

資 格 ・ 安 全 事 項

神奈川県支部

審査部長

2009年1月改正

1] 目的

(財)日本少年野球連盟の「以下、連盟という」大会規定を遵守する為に本書にて運用細則を定める。(連盟手引き書を遵守)

2] 資格審査

- 1) チーム代表は試合球場到着後直ちに大会本部に到着を報告する。
- 2) 球場責任者はチーム代表に対して資格審査の開始時間を指示する。
- 3) 審査開始前に登録役員選手名簿を確認する。

3] 資格審査方法と手順

- 1) 資格審査は2名1組で行うことを原則とする。
- 2) 選手整列を待たずに使用用具の審査を優先して行い、用具審査終了後に指導者及び選手を整列させ登録役員選手名簿と審査証とを照合確認する。
- 3) 使用用具の審査
 - a) 大会当日使用する、全ての用具を整列させ、連盟基準に沿って審査する。
※連盟指定業者の確認できない場合は大会本部に確認する。
 - b) ヘルメットは7個以上とし同色の安全な物とする。ヘルメット内のクッションが動いている物、はがれそうになっている物、ヒビが入っている物は使用禁止とする。
 - c) 捕手用具は必ず2セット用意する。
アンダープロテクター(キンカップ) 2個の確認(必ず用意する事)
 - d) グローブの閉じ紐が、切れそうになっている物、または、紐が長い物は短く切るよう注意指導する。※長い紐は走者にタッチした際に眼に入る事がある為。
 - e) バットグリップのほぐれ、ほぐれそうになっている物は使用を禁止する。
但し、補修後に再審査を受けて合格すれば使用を認める。
 - f) 手袋は審査の対象とする。(連盟指定業者の確認)
※審査で不合格となった用具は大会本部で預かり、試合終了後に返還する。
 - g) 審査終了後に審判部により直ちに先攻、後攻を決める。先発メンバー表は5部を持参させる。
 - h) リストバンドの使用を認める 手袋、リストバンドの色指定を解除する。
(2008年7月14日改訂)
 - i) スパイクは歯の留め金の緩み等がないかを確認し、安全上の問題があればその使用を禁止する。
- 4) 審査証との照合確認
 - a) 選手を右向きにさせて左袖のワッペンの有無を確認し、不付きの場合はその選手を出場停止とする。
 - b) 選手を後ろ向きにさせ、スパイク(小学生はポイントシューズ)を片足ずつつま先立ちにさせて金具の緩みやポイントの損傷がないことを確認する。また、その際に色やラインが同一系統色であることを確認する。なお、違う色やラインであった場合はその当日のみ有効とし、改善する様に指示する。
 - c) 選手名簿の順に背番号を読んで選手を振り向かせ、その際に審査証を提示させる。

- d) 選手に「氏名」「住所」「生年月日」を言わせ、登録役員選手名簿の記載内容と照合確認する。記載内容が一致しない場合はチーム代表に再確認し、間違いがあればその場で修正させる。また、審査証の写真と本人とが一致していることを確認する。
- e) 指導者の審査証と登録役員選手名簿に記載された指導者名が一致していることを確認する。
- f) 代表が不在の場合はチーム責任者証を有した代理者であることを確認する。
- g) 監督（60番）、コーチ（50番）は背番号を確認する。

4] 禁止事項

- 1) ロングパンツ（パンツの裾は膝下まで上げる）
- 2) ノースリーブユニホーム
- 3) リストバンド兼ねた手袋
- 4) グラウンド内にバット以外持込禁止
- 5) メガホンは3本以内（ベンチ内）
- 6) ペットボトル内に砂利等を入れて応援に使用すること。
- 7) ボーイズリーグでは隠し球を禁止する。

5] 安全事項

- 1) 捕手の返球は立って行う（座って行うことを禁止）
- 2) トスバッティングを行う時はヘルメットを着用すること。
- 3) ネクストサークル内では投手が投球動作に入った時、片膝をついて待機すること。
- 4) シートロック時のボールキーパーは必ずヘルメット着用すること。
- 5) 雷雲を感じた場合（雷鳴、稲光）は早急に試合を中断し様子を見る。
- 6) AED（自動体外式除細動器）のチーム常備を推奨する。

6] 確認事項

- 1) 次の試合の投手は、試合中のブルペン使用はできない。
但し、球場責任者が試合中のチーム指導者の同意を得た上で許可すれば指導者付きで、行うことができる（指導者は監督・コーチに限る）
- 2) サインはバッタボックスで見る。また、手を上げて見ない事。
- 3) 小学部は試合開始後1時間40分を超えて新しいインニングに入らない。
但し、時間内の場合は延長1回を認める。
決勝戦は2時間を超えて新しいインニングに入らず、時間内であれば延長は3回を認める。なお、同点の場合はタイブレークとする。
- 4) 中学部は試合開始後2時間を超えて新しいインニングに入らない。
但し、時間内の場合は延長1回を認める。
決勝戦は2時間20分を超えて新しいインニングに入らず、時間内であれば延長は3回を認める。なお、同点の場合はタイブレークとする。
- 5) 時間内に終了するよう攻守交代等は全力疾走で行う様指導する。
- 6) タイブレークは連盟の特別規則に従う。

運営委員の役割分担

1] 委員は現地に試合開始時間1時間30分前までに集合し、球場責任者の下でミーティングを行い、その日の進行及び役割を確認すること。

2] 委員の服装は連盟指定に従う

夏季（6月1日～9月30日）連盟指定帽子 ポロシャツ 紺色パンツ 白色の靴
冬季（10月1日～5月31日）連盟指定帽子 指定ネクタイ（白ワイシャツ）
指定上着（エンブレム付き）パンツ 白色の靴

3] 確認事項

- 1) 当日の試合数及び試合開始時間
- 2) 登録役員選手名簿の確認
- 3) 試合ボール ロージン確認
- 4) 試合記録用紙の確認
- 5) 審判員の人数の確認

4] 役割

- 1) 資格審査と試合前の役割分担に分かれて準備を進める

5] 資格審査

- 1) 2名 1組で行うこと。
- 2) 資格審査内容は、連盟の審査要項・大会規定・特別規則にもとづくこと。
- 3) 試合に使用する全ての用具を整列させる。審査を受けない用具は使用禁止とし、ベンチへの持込を禁止する。

6] 試合に使用する用具の業者指定。

試合で使用する用具は全て連盟で指定した下記業者の用具を使用すること。

<指定業者名>

- 1) (株) アシックス (ローリングス)
- 2) アディダスジャパン (株)
- 3) アメアスポーツジャパン (株) (ウイルソン・ディマリニ)
- 5) (株) エスエスケイ
- 6) (株) 久保田運動具店 (スラッガー)
- 7) 三共スポーツ (シュアプレー・プリマ)
- 8) (株) ザナックス (トラスト)
- 9) (株) ゼット
- 10) ダルマボール (株)
- 11) (株) デサント

- 12) ナイキジャパン
- 13) (株) ハイゴールド
- 14) ミズノ (株)
- 15) (株) ルイスビル・スラッガージャパン
- 16) (有) ニシオカベースボール企画 (ジームス)
- 17) マツダボール (株)
- 18) レワード (株)
- 19) ユーロスポーツ (株) (有イーストワードの社名変更) EASTONブランド
- 20) (株) ドーム (アンダーアーマー)

※用具でレックガード (バッテングレガース) エルボガード (打者用) の数を確認する。
捕手規定防具の数量は2セットあること。アンダープロテクター (キンカップ) 2個を確認すること。

7] 危険防止 (事故防止の観点から次の行為を禁止)

- 1) 野球規則上の守備、走塁妨害行為に対し厳しく対象する。
- 2) スパイクの歯を立て、野手に向かってスライディングすることを禁止する。
- 3) タッチプレー行為の際は空タッチを禁止する。また、スパイクの歯を立ててスライディングを行った場合は、セーフのタイミングでもアウトとする。
- 4) 野手のグラブに向かってスライディングする行為を禁止 (落球してもアウトする)
※主審よりチーム責任者に注意をする。
- 5) 救急箱はチームで用意し、必ずベンチ内に持ち込むこと。
- 6) 捕手が座って投球練習を受けるときは、必ず規定防具を着用のこと。
- 7) ベースコーチは必ず試合、または練習を問わずヘルメットを着用のこと。

連盟特別規則

使用する用具は全て連盟指定業者のブランド品とし、資格審査を受けない用具は使用を認めない。

1. 用具類

1] バット

- 1) バットは金属製・木製（1本の木材で製作された物）のみ使用を認める。金属製バットは製品安全協会のSGマークが付いているもの。
- 2) 小学生のバットは82cm以下で連盟マークが付いていること（シール、マークの無い物は禁止）
- 3) 中学生は連盟指定業者のブランド品のみ使用を認める。
- 4) 打撃行為の終わった後で規定外のバットが発見された場合はそれまでのプレーは有効とし、以後の使用を禁止する。

2] スパイクシューズ

- 1) スパイクシューズは、同色、同色ラインのものを使用する。
※ラインカラーが若干違う程度は認めるものとする。
- 2) 小学生の部は、一体成型のポイント式シューズのみ使用できる。
- 3) 中学生の部は、一体成型のポイント式か金具スパイクの使用を可とする。

3] ヘルメット

- 1) 打者用ヘルメットは1チーム7個以上で、同色で両耳付きのみ使用を認める。
捕手用ヘルメットは2個用意すること。
- 2) 傷害防止用具のレックガード（バッテングレガース）およびエルボーガード（打者用）の使用を認める。なお、色指定はしない。

4] グラブ ミット ユニホーム

連盟指定業者の製品を使用すること。

5] 手袋 リストバンド

- 1) 手袋、リストバンドの使用を認める。色指定は解除する（2008年7月14日改訂）
- 2) 手袋、リストバンド一体化した物は禁止する。

6] サングラス

- 1) 眩しくプレーに支障がでる場合には、審判員に申し出て許可を得れば使用を認める。

7] 審判員の措置

審判員は各項に対し、規則違反と判断した場合には、これを是正するように命じる。適当な時間を経て是正されていない場合には、その用品の使用を固執する選手を退場させることができる。

2. 試合

- 1) 小学生の部は6回、中学生の部は7回完了をもって正式試合とする。
- 2) 小、中学生とも4回を完了した時点で試合成立とする。

- 3) 4回表を終了し後攻チームがリードしている場合、コールドゲームが成立する。
- 4) 小学生の部は4回以降で7点差、中学生の部は4回終了時10点差 5回以降7点差でコールドゲームとする。
- 5) 試合成立後は試合開始後、小学生の部は1時間40分を超えて、(決勝戦は2時間)中学生の部は2時間を超えて(決勝戦は2時間20分)新しいインニングに入らない。
- 6) 試合時間の管理は球場責任者、あるいは球場責任者が指定した者が行うこととし、専用のストップウォッチを使用することを原則とする。
- 7) 試合成立後、小学生の部は6回、1時間40分、中学生の部は7回、2時間以内である場合は延長戦に入ることができる。延長は1回とし、かつ同点の場合はタイブレークにはいる。
- 8) タイブレークは1死、満塁で行う。
- 9) タイブレークの投球回数は投手の投球回数に加算される。
- 10) 同一日に行う試合数は2試合迄とする。
- 11) 連盟大会規定により、4回未満で雨天、日没で試合が中止された場合、サスペンデットゲームとする
- 12) サスペンデットゲームは続行試合とし同一日の試合数に入れず、投手は同一日の登板回数規定に従う
- 13) 1チーム攻撃、守備での指示、伝達はそれぞれ2回とし、計4回に制限する。タイムが宣告されてから30秒以内と時間を制限する。延長に入った場合1回の指示、伝達を認める。
- 14) 野手が2人以上投手のところに集合した場合はタイム1回に数える。
- 15) 審判のジャッジに対しは絶対に服従し、抗議は厳禁とする。
但し、規則上の疑義、その他の申し出については監督と当該選手だけが審判員に説明を求めることができる。
- 16) 試合開始予定時間に遅れたチームは、試合に出場できない。
但し、大会本部がやむを得ないと認める理由がある場合は出場を認める。指導者、選手も同様であり、ベンチに入ることは許される。
- 17) 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
なお、シートノックは同一日の全試合を同一条件で実施することとし、試合時間の関係等で途中試合からシートノックを中止する場合は球場責任者は両チーム指導者の同意を得る必要がある。
- 18) 試合前の先発オーダー用紙を交換後に背番号の誤記に気付いたときの処置
 - a) オーダー発表前なら、注意を与えて書き改めさせる。
 - b) 発表後、試合開始までに誤記が判明した場合は、訂正は認められず、記載された背番号の選手が出場する。
 - c) 試合中に誤記が判明した場合、判明した時点で正しく背番号の付け替え改めさせ、罰則は適用しない。但し、登録外選手であれば没収試合とし、相手チームに勝利を与える。

3. 攻 撃

- 1) 打者、走者は必ず両耳付きヘルメットを着用すること。
- 2) コーチボックスに入るときは規定のヘルメットを着用すること。
- 3) 試合中、攻撃側選手に不慮の事故が起き、一時走者を代えないと中断が長引くと審判員が判断したときは臨時代走を許可することができる。臨時代走は試合出場選手に限り、代走はその場限りとする。
- 4) バットリング、マスコットバット、鉄棒等ベンチ内に持ち込みを禁止する。
- 5) 野手を目かけて、足を上げてのスライディングは禁止する。その行為により野手が落球してセーフになっても、タイミングがアウトの場合はアウトを宣告する。
- 6) 本塁打の場合、ベースコーチ、次打者、その他の選手に接触しないよう注意しなければならない。
- 7) 小学生の部のみ、監督、コーチに限り、ベースコーチを努めることができる。
- 8) 走者、ベースコーチが捕手のサインを盗んで、打者に伝える行為を禁止する。

4. 守 備

- 1) 捕手は必ず規定防具を試合および練習を問わず着用すること。
- 2) 隠し球を禁止する。
- 3) 空タッチを禁止する。(行った選手には注意を与える)
- 4) 走者をだましてアウトにしたり、進塁を妨げる行為を禁止する。この場合ボールデットとし、安全に進塁、帰塁をさせる。

5. 投 手

- 1) 投手の同一日の投球数は小学生の部は6回、中学生の部は7回以下とする。
- 2) 同一日の連投を認めるが、制限回数以内とする、但し、端数回数(0/3・1/3・2/3)は切り上げて1回とする。
- 3) 小学生の部の試合で、走者が一・三塁で、三塁に偽投して、一塁に送球を禁止する。三塁に偽投して一塁に振り向いた時点でボールデットとする。
- 4) 小学生の変化球を禁止する、(変化球の判定は主審がする)1回目は投手、監督に注意し、2回目は同投手に降板を命じる。命じられた投手は、その試合に出場できず、ベースコーチのみ許される。
- 5) 小学生のスローボールは故意にボールに回転を与える以外は変化球と判定しない。
- 6) ボークの規制は中学生の部においては特に厳しく適用する。
- 7) 走者がリードしていないにも係わらず、塁に山なりの緩いけん制球を投げるとボークをとる。

6. 指導者不在の場合

- 1) 代表、あるいはチーム責任者証を持った代理者が不在の場合は試合ができない。その場合の代理者は連盟指定の服装であること。
- 2) 監督、コーチ、マネージャー不在の場合は欠席理由を明記して球場責任者に欠席届を提出し、許可されれば代理者が出場できる。

- 3) 監督不在の場合はコーチが監督代行ができる。背番号60を付けて、審査を受ければ監督の権限を行使できる。
- 4) コーチ不在の場合、指導者登録証をもった指導者が、背番号50を付けて審査を受ければ許可する。
- 5) 監督、コーチ不在の場合は登録証を持った指導者が60番、50番を付けて審査を受ければ許可する
- 6) マネージャーは選手と同じ帽子を着用しなければならない。
- 7) 代表は監督、コーチ、マネージャーにはなれない。

7. タイブ레이크方式実施細則

- 1) 中学生の部：延長8回（決勝戦10回）あるいは試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を超えて（いずれか早い方）両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- 2) 小学生の部：延長7回（決勝戦9回）あるいは試合開始から1時間40分（決勝戦は2時間00分）を超えて（いずれか早い方）両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- 3) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- 4) 走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
(例：前回打順9番打者で終了、打者打順1番、一塁走者打順9番、二塁走者打順8番、三塁走者打順7番)
- 5) 代打、代走は認められる。
- 6) チーム、および個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。
- 7) 投手記録
 - ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
 - ・完全試合は認めない。
 - ・無安打、無得点試合は認める。
- 8) 打撃記録
 - ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする、ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
 - ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。